

Let's Know Hiroshima Castle.

しろうや! 広島城



No.36

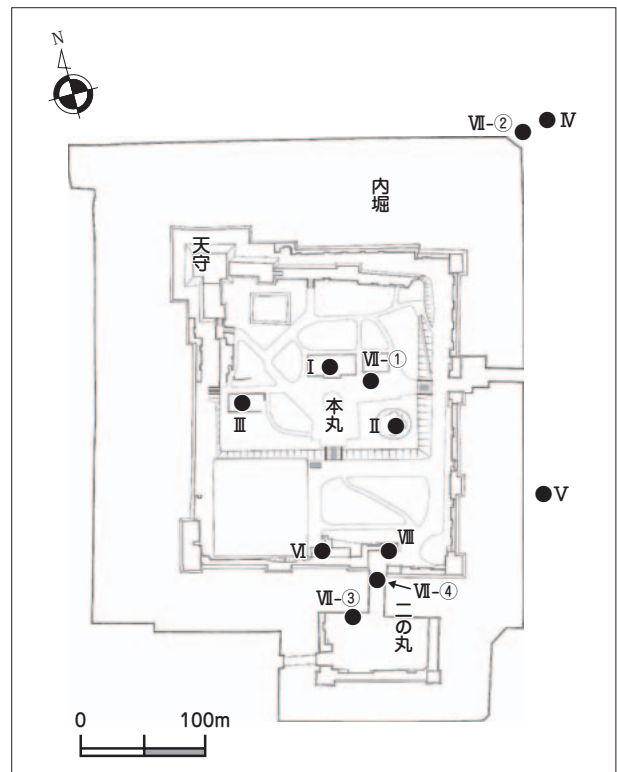
～被爆の痕跡をめぐる～

広島城紙上フィールドワーク

夏が近づいてきました。広島市はまた8月6日の平和記念日を迎えます。このころには国内外からたくさんの方々が訪れ、広島城にも平和学習を目的とされた方々が数多くいらっしやいます。広島城と平和学習？とすぐには結び付かない方も多くいらっしやるかもしれません。もちろん、お城というものは本来軍事的な目的をもって造られた要塞ようさいですから、その意味で無関係ではないのですが、実際の学習の対象は、広島城に残る、明治時代以降の戦争にかかわるもの、とりわけ被爆の痕跡です。

現在の中区基町を中心とした、もとの広島城ちんげいちんだい帯には、明治4年(1871)の鎮西鎮台第一分營の設置を契機として、軍事施設などが次々と設けられました。もちろんその多くは原爆で破壊されたのですが、その痕跡は各所に残されており、軍都とまで言われた広島ちんげいちんだいの歴史や被爆の様子を伝えています。そのうちのいくつかはこれまでの「しろうや!広島城」などでもご紹介してきましたが、ここでは現在の史跡広島城跡やごく近くにあるそれらの痕跡をまとめてめぐってみようと思ひます。

(右図中の番号は、本文中の見出しの番号と対応します)



史跡広島城跡および周辺の各遺構・痕跡の位置図

I 大本營跡

本丸の上段の真ん中に建物の基礎の石が残っています。これについては、「しろうや!広島城No.12」で触れていますが、もともとは明治10年(1877)に広島鎮台司令部として建てられた木造2階建ての洋館で、のちに第5師団司令部庁舎となり、それが明治27・8年の日清戦争の際、天皇が戦争を指揮する機関＝大本營の建物として使われた

ものです。戦争終了後の大正15年（1926）、史蹟名勝天然記念物保存法に基づき、史蹟として保存されることになりましたが、原爆によって上屋は倒壊しました。なお、東側には明治19年に建てられた別館もありました。同じように基礎の部分が今でも残っています。

大本営跡は昭和23年（1948）6月に史蹟を解除されましたが、その約5年後、昭和28年に内堀の内側（厳密にいうと、外周から6尺（約1.8m）外側の範囲も含む）は、文化財保護法に基づいて「史跡広島城跡」に指定されました。広島城跡と一体的に、貴重な遺構としてこれからも受け継がれていくことでしょう。



II 「桜の池」跡

明治31年（1898）の軍用水道の完成に合わせて作られました。中央の築山つきやまには噴水が設けられていました。「しろうや！広島城No.26」で触れています。



III 昭憲皇太后御座所跡しょうけん

大本営跡の西側、約70mのところにあります。大本営跡と違って標柱などがなく、樹

木に隠れているため目立たないのですが、大本営跡と同じように基礎などの石が残っています。もともとは明治23年（1890）に建設された2階建て木造洋館で、第5師団の監督部でした。同27年に大本営が広島に移ってからは、その事務所として使用され、さらに翌28年2月から4月まで、当時皇后であった昭憲皇太后が広島に滞在した間は、御座所とされました。この建物も原爆により倒壊しています。



IV 広島陸軍幼年学校門柱

陸軍幼年学校は、陸軍の幹部将校候補を養成する教育機関です。広島には明治30年（1897）に設けられたのが最初で、当初は広島陸軍地方幼年学校と呼び、城の南側を校地としていました。大正7年（1918）に広島陸軍幼年学校と改称後、昭和3年（1928）いったん廃校となりましたが、同11年に本丸の北側の広大な敷地に復活しました。「幼年」とありますが、学んだのは現在の中学生ぐらいの年齢です。被爆当時、学校は郡部へ



疎開しており、校地には他の部隊などが入っていました。原爆によって校舎などの建造物はほとんど壊滅しましたが、表門の門柱が残りました。現在はそのうち3本が修復されて残されています。

V 「歩兵第十一^{れんたい}聯隊跡」の石碑と門柱

歩兵第11連隊は、広島鎮台の基幹部隊として明治8年（1875）に広島で編成され、本丸から内堀を挟んで東側、かつての三の丸の東半分と大手郭の一部を範囲として兵営が置かれていました。被爆時には中国軍管区歩兵第1補充隊が駐屯していました。現在、内堀の東側に石碑や表門の門柱が設置されています。この部隊の表門はもともと二の丸の南側すぐのところのところに設けられていましたが、のちにその南側、中堀際に移動、南側に広がっていた西練兵場に直接出られるようになっていました。



VI 中国軍管区司令部防空作戦室跡

本丸の南辺に造られた半地下式の鉄筋コンクリート造りの建物で、昭和19年（1944）8月ごろから建設されたという証言があります。太平洋戦争末期には、ここで中国地方の防空作戦を直接指揮していました。ここでは、被爆当時、比治山高等女学校の生徒が学徒動員で勤務しており、ここからその生徒によって被害報告が外部に発せられたと言われていました。内部は五つの部屋に仕切られていて、現在でも四つの部屋が比較的良好に遺存しており、事前に申請すれば見学することも可能

です。（問：公益財団法人広島市みどり生きもの協会 TEL082-228-0815）

「しろや！広島城No.21」でも紹介されています。



VII 被爆樹木

広島市が平成8年（1996）度から登録を始めました。爆心地から概ね半径2 km以内にあるもので、現在55か所に約170本あります。

①クログネモチ

大本営跡のすぐ脇にあります。建物の前にあった庭園の植え込みにあった樹木のひとつとされています。



②クスノキ

幼年学校門柱のすぐそばにあります。北面の痛みが目立ちますが、これはその方向にあった広島陸軍幼年学校の火災の影響と考えられています。



③ユーカリ

二の丸と本丸とを結ぶ土橋の南詰付近にあります。昭和46年（1971）の台風で上部が折れましたが、再び芽をだし、樹高9m以上にまで成長しています。

④マルバヤナギ

ユーカリのすぐ北側、土橋の北詰付近にあります。今でも夏場には青々と葉を茂らせますが、幹が空洞化するなど痛みも目立ちます。



左の○がユーカリ、右がマルバヤナギです。

Ⅷ 中御門跡の石垣

軍関係の施設というわけではありませんが、石垣が赤く変色していたり、ひび割れたりしており、被爆時の火災の熱によるものと言われています。なお、写真右に見える北側石垣の隅の部分は戦後に補修されたものです。



（大室謙二）

■ 被爆痕跡ガイドのご案内

日時：平成25年8月5・6日

9：30～17：00の間、随時

場所：史跡広島城跡

（大本営跡前・中国軍管区司令部防空作戦室跡入口付近など）

内容：ボランティア「ひろしま歴史探検隊」が被爆痕跡などをご案内します。

料金：無料

■ ミニガイド「広島城と原爆」のご案内

日時：平成25年8月5・6日

9：30～17：30の間、毎時30分（所要約10分）

場所：広島城天守閣第2層

内容：写真などを見ながら広島城の近代・原爆投下時・戦後の復興に関する解説を行います。

料金：無料（天守閣観覧料が必要です）

しろうや!

広島城

編集・発行
財団法人広島市未来都市創造財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

平成25年7月1日発行

「しろうや! 広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

（12月～2月の平日は9：00～17：00）

入館の受付は閉館の30分前まで

観覧料：大人360円（280円）

シニア（65歳以上）180円（100円）

小人180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～31日

臨時休館（平成25年12月10・11日）

臨時開館（平成26年1月1・2日）

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト